

## 1. 野蒜築港の開始

明治8年(1875)8月,第1回地方官会議に参集した東北6県の県令は,大久保内務卿の産業振興に対する諮問に対し,一致して運輸交通の便の増進を具申した。その第一に,東北の内陸物資輸送の大動脈としての北上川改修と,海運との連結点としての北上川河口の築港を建議した。<sup>1)</sup>仙台湾における築港は,東北開発にとって焦眉の急務であつた。このような仙台湾築港の要請を,より大きな世界的規模の国土開発と云う視点から捉え返したのが大久保利通(1830~78)であつた。鎖国日本の扉を開いたのがペリー(M.C.Perry, 1794~1858)の米国艦隊であつたことから理解されるように,近代日本は,対米関係を軸とする太平洋時代に突入しつつあつた。大久保は,このような歴史動向を洞察し,仙台湾における新港を,単なる地方港湾ではなく,対米貿易の大基地港としようとして計画したのである。

明治9年(1876)6月2日から7月21日にかけて,東北地方の人心綏撫を目的とする明治天皇(1852~1912)の東北巡幸が行われた。この時,仙台市で仙台博覧会が開催され,明治天皇の展覧に供せられた。博覧会場では,伊達家が出品した支倉常長の画像が異彩を放っていた。<sup>2)</sup>支倉常長(1571~1622)は,伊達政宗(1567~1636)によつてイスパニアおよびローマに派遣された使節団の団長であつた。支倉使節団は慶長18年9月15日(1613.10.28),石巻湾の月の浦(石巻市)を出帆し,マドリッドでイスパニア国王と会見,ローマでローマ法王と会見し,元和6年8月26日(1620.9.26),月の浦に帰国した。<sup>3)</sup>仙台湾新港計画は,天皇巡幸に随行した大久保が支倉使節団の遣欧事蹟に触発され,発想したものと推定される。

大久保の現地踏査の結果,新港建設地として,鳴瀬川河口の野蒜(宮城県桃生郡鳴瀬町)が選定された。<sup>4)</sup>野蒜築港工事は,明治1年(1878)7月,着工された。<sup>5)</sup>

## 2. 七大プロジェクト

明治1年(1878)3月6日,大久保内務卿は太政大臣:三条実美(1837~91)あて「一般殖

大久保利通の  
七大プロジェクト

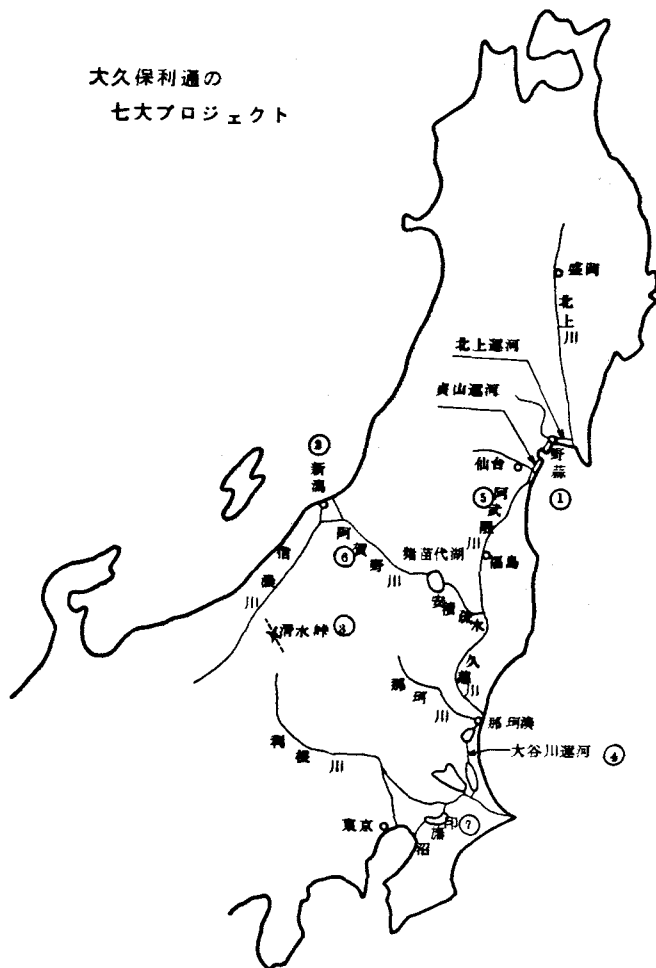


図-1 大久保利通の七大プロジェクト

産及華士族授産ノ儀ニ付伺」なる伺書を提出した。伺書は、士族授産事業の振興により、当時の重大な社会問題であつた士族の救済を行うことを提案するとともに、さらにそれを発展させ、一般殖産をはかるための日本の国土計画論を展開させている。具体的方法としては、「一般殖産及華士族授産方法」において、第一等・第二等・第三等の3項目にわたる計画を提案している。<sup>6)</sup>

第一等は、新しい土地に開墾事業を興し、1万3000戸の華士族を入殖させる計画である。

第二等は、華士族に現住地より1里内外の官有荒蕪地を貸与し、開墾に従事させる計画である。

第三等は、一般殖産のため、資本金350万円を準備し、内務省の指導のもとに国土開発事業を進める計画である。「第三等ハ一般殖産ノ事ヲ謀ルカ為ニ資本金参百五拾萬円ヲ内務省ニ備ヘ各地方固有物産ノ保護改良ヲ主トシ推テ運輸ノ便ニ及ホシ漸次諸業ノ改進各物ノ蕃殖上要用ナル資本ニ給貸スルモノトス」<sup>6)</sup>

その具体的計画は、次のようなものである。

「但運輸ノ便ヲ開クカ如キ漸次各地ノ形状ニ從テ舉行スヘキモノ百端アリト雖トモ中ニ就テ尤其ノ較著ナルモノセトナス其一宮城県下野蒜開港此ノ土エタル北上川ヨリ運河ヲ疏鑿シ港ヲ野蒜ニ開設スヘシ其費額凡参拾五萬円トス其ノ二新潟港改修工費概計参拾五萬円其ノ三越後清水越上野運路ノ開鑿此ノ工ヤ明治七年中人民ノ協力ニ出テ其ノ工ヲ竣フト雖トモ運輸未タ十分ノ便ヲ得ル能ハス依テ之ヲ改修セントス其ノ四大谷川運河ノ開鑿茨城県茨城郡北浦ト涸沼トノ間ヲ開鑿シ運路ヲ那珂港ニ取ル其工費二拾萬円ニ過キササルヘシ尋テ那珂港ヲ修築スルノ設計ヲ為サントス其ノ五阿武隈川ノ改修該川ハ源ヲ白川ニ発シ福島ヲ経屈折凡三十餘里ニシテ海ニ達ス然レトモ其ノ海口險惡ニシテ船舶ニ便ナラス依テ同川ヲ修浚シ更ニ運河ヲ疏鑿シテ塩竈ノ内海ニ達シテ野蒜ノ新港ヲ合スルヲ得ハ福島地方ノ便利ヲ得ル又少小ニアラサルヘシ其ノ六阿賀川改修新潟県下阿賀川ヲ改修シテ会津ノ運便ヲ開ク其ノ七印旛沼ヨリ東京ヘノ運路印旛沼ヲ検見川ニ連接シ深川新川ニ通ス工費凡式拾餘萬円トス以上ハ東北諸州水陸運路ノ便利ヲ興フル其ノ大概ヲ挙ルノミ之ヲ実施スルカ如キハ宜ク緩急ヲ量リ該地運輸諸物品ノ価格ヲ查算シ工費ノ如キハ現今第一国立銀行ヨリ借入起業セントノ目算モ之レアリ(其期至リ尚可相伺積リ)是等ノ如キ第一着ニ舉行セントス中ニハ追々人民ノ協力ニ成ルモノアルヘシト雖モ或ハ其費額ノ幾分ヲ補給セサルヘカラサルアリ或ハ全ク官設ニナサルヲ得サルモアルヘシ是等ノ経費モ亦前載ノ参百五拾萬円中ヨリ支出シテ漸ク開物ノ効ヲ奏セントス」<sup>6)</sup>

上記のように、国土開発の7大計画よりなり、栗原東洋は、これを「大久保利通の七大プロジェクト」と呼んでいる。<sup>7)</sup> 七大プロジェクトを列記すると、次のようになる。

- ①野蒜築港 ②新潟港改修 ③越後～上野運路(清水越)の開削 ④大谷川運河の開削 ⑤阿武隈川改修 ⑥阿賀野川改修 ⑦印旛沼運河の開削

七大プロジェクトは、野蒜港・新潟港・東京を3基点とし、その間を運河で連結し、東北日本の開発を進めようとするものである。野蒜港より東方に北上運河を開削して北上川と結び、西方に東名運河を開削し、仙台湾・貞山運河を経由して阿武隈川と結ぶ。新潟港より阿賀野川を経由して猪苗代湖に達する。猪苗代湖より安積疏水によつて阿武隈川に達し、福島を経て河口の荒浜に達する。これにより、表東北と裏東北が運河によつて結ばれる。大谷川運河の開削により、那珂湊と利根川が結ばれ、さらに印旛沼運河の開削によつて利根川と東京湾が結ばれる。七大プロジェクトの実施により、東北日本の3拠点の東京・仙台・新潟が運河および海路で直結し、東北日本の開発は飛躍的に進むことが期待される。明治初期における大久保の国土計画は、対内的には東北日本の開発、対外的には野蒜築港による対欧米貿易の振興を柱とするものであつた。

【参考文献】1) 田村勝正：『野蒜築港と新市街地の景観』；歴史地理学会：『歴史地理学紀要13 海洋・海岸の歴史地理』、1971.3.31 2) 日報社：『東京日日新聞』、1876.7 3) アマチ：『伊達政宗遣使録』、1615；東京帝国大学：『大日本史料』、12-12, 1909.3.2 4) 石巻市史編纂委員会(佐藤露江)：『石巻市史 第2巻』、1956.10.10 5) (社)工学会：『明治工業史 土木篇』、1929.7.31

6) 大久保利通：「三条公への伺書 明治11年3月6日」；『大久保利通文書 9』、1929.6.25

7) 栗原東洋：『印旛沼開発史 第一部 上巻』、1972.3.20